

第二十六回帝國議會 衆議院 漁業法改正法律案委員會會議錄(速記)第三回

會議

明治四十三年二月十九日午前十一時開議

出席委員左ノ如シ

齋藤

總明君

齋藤

二一郎君

藻寄

鐵五郎君

東

武君

河上

英君

三浦

覺一君

武滿

義雄君

細川

義昌君

粕谷

義三君

山田

桃作君

庄野

金十郎君

平島

松尾君

小山内

鐵彌君

鈴木

仙太郎君

齋藤

巳三郎君

花井

卓藏君

高木

正年君

森

肇君

出席國務大臣 左ノ如シ

農商務大臣 男爵大浦 兼武君

出席政府委員 左ノ如シ

農商務次官 押川 則吉君

農商務省水產局長 道家 齊君

司法省民刑局 長法學博士 平沼騏一郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

漁業法改正法律案

○委員長(板東勘五郎君) 是ヨリ委員會ヲ開キマス、前回ニ引續キマシテ先ツ大體ニ付テ質問ヲナサルコトニ致シタウゴザイマス

○高木正年君 此漁業法ノ改正法案ハ多年衆議院ノ懸案ニナッテ居リマシテ、今回法律案改正ノ箇條ハ私共ノ主張シタ事柄ニ付テモ、幾分力其意思ヲ達セラレテ居ルヤウデアリマスガ、併シ此新法ノ適用ト、四新法ニ對スル疑問トニ付テハ、依然了解シナイ點ガアルデアリマス、私共本案ニ對スル懸案トナッテ居ルノハ、漁權ノコトデアリマスガ、此漁權ナルモノヲ一種ノ物權ト見做シタノガ今回ノ法律ガ初メテノヤウニ條文ノ上デハ見エレドモ、併シ舊漁業法モ元來此性質ヲ具ヘテ居ル、既往ニ於テハ家督相續、賣買、讓渡等モ許サレテ居ル、然ルニ新法デハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關スル利用ヲ制限スルコトガ出來ル、或ハ停止スルコトガ出來ルトナッテ居ル、今回ハ第八條ニ依ッテ漁業權ヲ物權ト見做シテ、土地ニ關スル規定ヲ準用スト迄明確ニ規定シタ、然ルニ二十四條ヲ見マス、一方ニ土地權ノ設定マデ許サレテ居ルニ拘ラズ、其設定ノ土地權ニ對シ二十四條ハ容易ク取消スコトガ出來ルヤウニナッテ居ル、二十四條ハ水產動物植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行、碇泊、繫留若クハ國防其ノ他ノ軍事上必要アル時、又ハ公益ヲ害スルモノハ制限シ、又ハ取消スト云フノデ、舊法ヨリ此邊ハ餘程多クノ具體的ノ文字ヲ列ベラレタノハ、稍々吾々ノ意ヲ強フスルコトデアリマスケレドモ、一體漁權ヲ物權ト見做サレ以上ハ、縱令軍事上必要アリ、又ハ其他公益ニ關スル必要ガアル時雖モ、何等ノ主張ヲモ許サズ之ヲ取消スト云フコトハ、第八條ニ於テ漁權ヲ

一ツノ確實ナル物權ト認メタルニ拘ラズ、其精神ニ於テハ二十四條ハ是ガ根底ヲ傷ケルヤウニ思ハレ、是ハ既ニ現漁業法制定ノ當時モ議會ニハ辯論モアリ、私共モ之ニ反對論ヲ述ベタ一人デアリマスガ、ソレ以來議會ノ懸案トナッテ僅ニ抵當權ノ一部ダケハ希望ヲ達セラレ、漁權ハ幾ド土地ト同様ナル所有權ヲ認メルト云フコトニ付テハ、此新法モ不確實ナル點ニ於テハ、唯五十歩百歩ノ界ニアルト思フデアリマス、政府ハ一步ヲ進メテ尙之ニ對スル保障ヲ與ヘヌカト云フコトヲ尋ネタイデアリマス、ソレト附帶シテ適用ノ上ニ付テ承テ置キタイノハ、舊法ニ公益ト云フ文字ノ解釋ニ付テ、私共當時委員デアッテ尋ネタコトガアリマシタガ、公益ト云フノハ築港等ノ場合ヲ指スト、當時ノ政府委員牧君ハ説明シテ居ル、此公益ヲ害スルコト云フコトニ付テ御尋シマスガ、或ハ埋立ヲナス、若ハ運河トカ築港等ノ場合、漁權アル場所ニ運河築港ガ出來ル、若クハ公益ノ名ノ下ニ埋立ヲナス時ハヤハリ公益ヲ害スルコトニナルカ、埋立ガ出來ル築港ガ出來ルト云フトキハ二十四條ニ依テ政府ハ取消スデアリマスガ、之ヲ伺ヒタイ、ソレカラモウ一ツハ第四十四條ノ漁業組合聯合會ノ事デアリマス、此聯合組合ニ付テハ澤山ノ箇條ガ上テラレテ居リマス、土地權ノ設定、漁業組合ノ勸、其他之ニ附帶シタ箇條ガアリマスガ、要スルニ此二箇ノモノガ新法ニ掲ゲラレテアル、其抵當權ノ事ニ付テハ唯今述ベマシタガ、二十四條ニ付テ御尋シタイノハ、四十四條ノ漁業聯合組合ト云フモノハドウ云フ風ニ適用サレノデアリマスガ、例ヘバ東京府ナラ東京府ト云フモノ、現在ノ組合ト聯合セルト云フコトハ、此法ニ據ッテ認メラレノデアリマスガ、併シ東京府ト神奈川ノ界ニ於テ二箇若クハ數箇ノ組合ガ漁業ノ關係上ドウシテモ聯合シナケレバナラヌヤウナ場合ニハ、何レノ場所ニ聯合ナルモノヲ認メラレカ、私共豫テノ希望ハ、其一部分ノ間ニ起ッテ聯合ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケル、縣ト縣トノ間ニ起ッテモノハ、農商務大臣ノ認可ヲ受ケルヤウニシタイト云フ希望ヲ有シテ居タ、此法案ニ付テハ何等明確ナルコトヲ置イテナイ、最モ此法案ガ出來タ後命令ヲ以テスルト云フ箇條ガアリマスガ、是等ハ命令ヲ以テセラル、ト思ヒマスケレドモ、一應政府ノ意見ヲ辯明シテ欲シ、元來言ヘバ漁業組合ノ組織ヲ變更スルカラ、是カラ漁業組合ガ總テノ變動ガ起ル原因ニナッテ居ル、舊來ノ慣行カラ漁業組合ノ性質ヲ論ジテ見マスレバ、舊法ノ實施セラレヌ以前ニ於テハ、一漁場ニ澤山ノ組合ガ出來テ居ル、一ノ漁場ニ澤山ノ組合ハ出來テ、新法ノ漁場ハ漁場本位デアアル、部落本位デアアル、漁民ノ住居シテ居ル部落ニ依ッテ組合ガ出來テ居ル、其故ニ同一漁場ニ出入スル組合ニ付テハ、必ズ爭ガ起ル、舊來ト雖モ部落ト部落トノ爭ハアッタニ相違ナイガ、併ナガラ一ツデアッタガタメニ之ヲ圓滑ニ處分ストト云フコトノ出來ル途ガアッタ、是無キガタメニ一漁場ニ於テ部落ノ關係ノ異ナルガタメ始終爭鬭ガ絶ヘナイ、就中縣トノ間ニハ最モ爭鬭ガ盛デアアル、是ハ全ク舊法ノ誤レル點デ、今度聯合組合ト云フコトニ付テ幾分カトリハ取ッテ居ルガ、モウ一步進メテ同一漁場ニ對シテハ同一組合ヲ設ケルト云フコトニナッテ來ルト、今日ノ如キ爭鬭ハ必ズヤ一掃セラルト思フ、是ハ私ノ希望デアリマスガ、唯今申シタ適用ニ付テ伺ッテ見

タイト思ヒマス、之ニ付テ詳シイ政府ノ意思ヲ表明シテ貫ヒタイト思ヒマス

○花井卓藏君 唯今ノ質問ニ牽聯スルノデハアリマセウガ、唯今ノ質問ノ前提トシテ同ツテ置クコトが必要デアラウト思フコトガアリマスカラ、質問ヲ致シタイ

○委員長(板東勘五郎君) 花井君

○花井卓藏君 第一ニ御尋致シタイコトハ、漁業法ト云フ法律ハ行政法ノ一部ヲ成ス趣旨ヲ編ミ立テラレテ居ルノデアリマセウカ、如何デアリマセウカ

○政府委員(道家齊君) 唯今花井君カラノ御質問デアリマスガ、此漁業法ハ行政法ノ一部ヲ成スヤ否ヤ、是ハ無論行政法ノ一部ヲ成ス積リデゴザイマス

○花井卓藏君 然ラバ漁業權ナルモノハ行政權ノ許可權デアルト云フコトニ解釋シテ宜シイデアリマセウカ

○政府委員(道家齊君) 御答致シマス、此漁業法中ニハ御承知ノ通りイロ／＼規定モアリマスガ、此漁業權ニ付キマシテハ是ハ行政法ノ處分ニ依リマシテ、即チ免許ニ依テ其權利ガ發生スルコトニナツテ居ルノデアリマス

○花井卓藏君 能ク分リマセウガ、漁業法ハ行政法ノ一部デアル、漁業權ハ漁業法ナル行政法ノ授ケタルコロノ權利デアアル、斯ウ云フコトニ解釋シテ宜シイデアリマセウカ

○政府委員(道家齊君) サウデゴザイマス

○花井卓藏君 進ンデ權利ノ性質ニ付テ御尋ヲ致シマスガ、漁業權ハ人格權ト見マシテ居ルノデアリマセウカ、財産權ト見ラレテ居ルノデアリマセウカ、或ハ又人格權兼財産權ト見ラレテ居リマセウカ、之ヲ伺ヒタイ

○政府委員(道家齊君) 唯今ノ御尋ハ、漁業權ノ性質ハドウダト云フ御尋ト考ヘマスガ、漁業權ハ唯今申シマシ通りニ、元漁業權ノ發生ハ行政ノ處分ニ依テ發生ヲ致シマスルガ、其發生シマシタ愈々權利トナツタ場合ハ、其權利ノ性質ハ何デアアルカト申シマスレバ、此改正案ニ規定シテアリマス通りニ、是ハ一ツノ物權ト見テ規定シテゴザイマスカラシテ、即チ漁業權ノ性質ハ本法ニ於キマシテ物權ト見テ居リマス

○花井卓藏君 物權デアアルト云フ御答ハ出來ヌデアリマセウ、第八條ノ規定ニ「漁業權ハ物權ト看做シ」ト書イテアル、而シテ「土地ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス」ト書イテアル、得ル手續ハ行政ノ働キデアルケレドモ、得タル其者ハ物權デアアルト云フ斷定ハ私ハ出來マイト思フ、「看做ス」ト云フコトハ所謂看做スデ、法律ノ言葉ニ澤山書イテアルケレドモ、看做ス權利ハ本來ノ權利デハナイノデ、看做ス權利ハ即チ慣行權トモ名ヅケルノガ相當デアアルカト思ヒマス、行政法ノ授ケタル權利ハ依然トシテ行政法ノ授ケタル權利ハ依然トシテ行政法ノ授ケタル權利デアツテ、其働キヲ物權同様ニ行政法ニ於テ認メルト云フコトニナレバ意味ヲ成スガ得タル權利ハ直ニ物權デアアル、其理由ハ私ニハ分ラヌ、漁業法第八條ニ書イテアル「漁業權ハ物權ト看做ス」ト書イテアルノハ「漁業權ハ物權トス」ト云フ意味ニ嚴格ニ讀デ宜シイデアリマセウカ

○政府委員(道家齊君) 唯今私が申シマシタノハ少シ言葉が足りナカッタト考ヘマス、ツマリ八條ニ書イテアリマスカラ、即チ漁業權ナルモノハ物權ダト斷定シタ譯デアリノデアリマス、即チ漁業權ノ性質ハドウダト云ヒマスレバ、先ヅ物權ニ近イモノト見テ、サウシテ運用上ニ於テ、法律上權利ノ性質ヲ凡ソ物權ニ近イモノダト云フコトヲ規定シテ、隨ッ

テ其適用上ニ於テハドウデアアルカト云ヘバ、土地ニ關スル規定ヲ準用スル、斯ウ云フコトニ書イテアルノデアリマス

○花井卓藏君 唯今ノ御答辯ヲ確メテ置キマスガ、御答辯ノ中ニ「物權ニ近キモノトスル」ト云フ趣旨ノ御言葉ガアリマシタガ、間違デアリハセウカ、物權同様ノ働キヲ爲サシムルト云フコト、物權ニ近イモノトカ、或ハ物權デアアルトカ云フコト、ハ大變ナ差異ガアルト思フ

○政府委員(道家齊君) 物權ト看做スノデス、物權トシテ取扱フト云フノデス、物權デアルト云フ斷定デモナケレバ、物權ニ近イモノデモナイ、物權ト看做シテ、即チ物權ニ類似ノモノデアアル、即チ近イモノデアアルガ、性質ハ即チ物權ト看做シテ居ル權利デ、漁業權ハ漁業權デアアル

○花井卓藏君 物權ハハナイト云フコトヲ御認メニナルノデスカ

○政府委員(道家齊君) 漁業權ハ漁業權デアルト……

○花井卓藏君 ソンナ曖昧ナコトヲ言ッテハ困ル、即チ漁業權ハ行政法ノ授ケタル一ツノ許可權デアアルカ、或ハ物權デアアルカト云フコトヲ尋ネルト云フト、行政法ノ授ケタル權利デアルト云フコトダケヲ御答ニナツテ、サウシテ働キヲ物權同様ニ行クモノデアルト云フコトヲ御答ニナツタデアアルカラ、漁業權ハ漁業權デアルト云フコトハ、問ニモナラナイ、答ニモナラナイ、畢竟高木君ノ疑ナドガ起ルノモ此法律ノ性質、權利ノ性質サヘ分タナラバ高木君ノ如キ疑ノ起ッテ來ル必要モナイノデアアル、法文ノ解釋ガスラ／＼行クノデアアル、其意味ガサッパリ分ラヌカラ御尋ヲシテ行カナケレバナラヌデアリマス、漁業權ニ關シテ高木君ノ御演說モアリマシタガ、私も多小歴史ヲ有ッテ居ル、是ハ農商務省ガ年々歲々落第シタルコロノ案デ、嘗テ一度モ當院ヲ及第シタルコトハナイ、ソレヲ某議員ガ提ゲ來ッテ、議員提出デ辛ウシテ通過シテ運命ヲ持ッテ居ル法律デアッタノデアリマシタガ、マアドウカカウカ法律ニナツテ出テ來タ、出テ來タトコロガ、所謂物權ト看做サレテ居ッタケレドモ、抵當權ニ付テハ認メラレテ居ナカッタト云フノデ、年々歲々議員ヨリ提出セラレテ居ッタデアリマスカレドモ、政府ハ之ニ反對ラシ、議院ハ之ニ反對シテ潰サレシマッタ、所ガ其議案ノ年々歲々提出シ來タルコロノ案ノ骨子トモ云フベキ、漁業法ノ抵當權ヲ認ムルト云フコトヲ、ソレデ御定メニナツタノガ此法律デアアル、抵當權ヲ認ムルヤ否ヤト云フコトハ別問題デアリマシテ、昔カラ此漁業權ノ權利ノ性質ガ定ッテ居ナイト云フコトヲ、吾々ハ遺憾トシテ居ルノデアリマスカラシテ、此機會ニ之ヲハッキリ定メテ置ク必要ガアラウト思フノデ、問ヲ發スルノデアアル、行政法ノ授ケタル權利デアリ、而シテ一定ノ條件ノ下ニ授ケルトコロノ權利デアアル、斯ウ云ヘバ權利ノ性質ハ授ケタル權利デアアル、而シテ一定ノ條件ニ限ラレテ居ル、一定ノ人ニ限ラレテ居ル、一定ノ村ニ限ラレテ居ルモノトスレバ、是ハ人權ノ性質ヲ得ルモノデアアル、斯ウ見ヌケレバナラヌ、既ニ然リト致シマシタナレバ、授ケラレタイカラト云ツタツテ之ヲ奪フト云フノモ行政作用デアアル、之ヲ制限スルノモ行政作用デアアル、ソレデ高木君ノ疑ノ如キモ全ク無用ノコトデアルト云フコトニ相成ラヌケレバナラヌ、此點ニ於テハ私モサウ考ヘル、是ヲ物權デアアルト云フ事柄ニ見ラレト云フト、之ヲ制限スル、之ヲ取消スト云フ事柄ハデス、直ニ變ナコトニナルノデ、即チ民法上ノ物權同様ノモノト見テ置キナガラ、物權ニ何等ノ關係ヲ有セザル、物權ト沒交渉ナル行政官廳ガ之ヲ

○花井卓藏君 入漁權ノ性質ト云ッテ御尋シタ方が宜シイ

實上現行法ニ於テ一ツノ訴訟が起リマシテ、問題ニナツタ事實がアルデゴザイマスカラ、其

點ヲ御説明ヲ願ヒタイと思ヒマス

○政府委員(法學博士平沼騏一郎君) 是ハ此漁業法ニ於キマシテ土地ノ所有權ト大分働キノ違ヒマス點アリマス、權利ノ實體ハ組合ニアル、併シソレヲ行フノ組合員デアル、斯ウ云フ仕組ニナッテ居リマス、是ハ理屈ノ上カラ仰シヤリマスレバ、御議論モアリマセウケレドモ、此法案ニ於キマシテハサウ云フコトニ規定致シマシテ、ツマリ實體ノ方ト働キノ方トハ別ナ人ニ歸納スルコトニナル、斯ウ云フコトニ致シマシテ理由ニ付キマシテハ、農商務ノ當局者カラ御話致シマス、仕組ハサウ云フ風ニ致シマシテ

○鵜澤總明君 唯今ノ御説明ニ依リマス、特別ノ仕組ヲ御設ケニナッテ御説明ヲ仰ギタイノデアリマスガ、此漁業ヲ爲スノ權利ト云フモノヲ、ヤハリ是ハ物權ト解釋セナケレバナラヌノデアリマセウカ、或ハ解釋上或種類ノ債權ノヤウナモノト見テ差支ナイカト思フノデアリマスガ、ソレヲ若シ物權アリ、物權ノ本體、發動アルト云フコトニシテシマイマス、隨分ムツカシイ事柄ガ外ノ點ニ於テ生ジテ來ルト思ヒマスガ、其點ハ唯今ノ御説明ノ通りニ、政府ニ於テハ外ノ解釋ヲ容レナイ意味デアリマスガ、或ハ債權ヲシイモノ、意味ニ解釋シテモ差支ナイ、斯ウ云フコトデアリマセウカ、其點モ御説明ヲ願ヒタイ

○花井卓藏君 ソレニ牽聯スルコトガアリマス、唯今鵜澤君ノ御尋ニナッテ趣旨ハ單リ漁業法ニ付テノミニアラズ、一般ノ行政法ガ授ケタル權利ニ付テ常ニ其感想ヲ私ハ抱イテ居ルノデアアル、此漁業法ノ八條ヲ生ムトコロノ源ハ恐ラク漁業法デアラウト思フノデアアル、鑛業法ノ第何條デアツカ規定ハ記憶致シテ居リマセウケレドモ、此權利ヲ物權ト看做スト云フ趣旨ノ條文ガアツタヤウニ記憶致シテ居ルノデアアル、是ハ抑、誤デ居ルト私ハ考ヘル、曩ニ水產局長ヨリ明答セラレタル如ク、漁業法ト云フノハ行政法デアアル、既ニ行政法ナリトスレバ、ソレヲ授ケタル權利ハ行政法ノ授ケタル權利デアアル、法律上ノ言葉ヲ以テ申シマシタナラバ、行政上ノ許可デアアル、從テ民法トハ沒交渉デアアル、私權、物權ノ觀念ト沒交渉デアアル、斯ウ定メテ置イテ法文ヲ制定セラレタナラバ宜シカラウ、尤モ斯ノ如キノ權利ヲ認メラレテモ、或ハ相續ノ自由ヲモ認メテヤラナケレバナラヌ、又抵當ノ自由モ認メナケレバナラヌト云フ事柄ガナツタナラバ、物權ト看做サズシテ、行政權

ノ授ケタル權利トシテ、民法社會、司法社會トハ關係ヲ絶チテ、行政作用デ之ニ似タル名前ヲ付シテ、一種ノ働キヲナス權利ヲ御授ケニナツタナラバ、甚ダ適當デアルマイカト云フ感ヲ起スノデアアル、既ニ物權ト看做シテ、既ニ制限ヲ受ケルノデアアル、曰ク「行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ處分スルコトヲ得ス」行政官廳ノ命令ノ下ニハ制限ヲ受ケナケレバナラヌ、場合ニ依ッテ取消スマデ受ケナケレバナラヌ、斯ウナッテ居ル、少シモ私權ノ働キヲ爲シテ居ナイ、何故ニ物權ト看做シテ民法ノ支配ニ屬スルヤウナ立法ヲセラレタノカ、是ハ私ノ感ヒノ種ニナルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ農商務大臣ノ答辯ヲ伺ヒタイと思フ、是ハ重大問題デアルカラ農商務大臣ノ其點ニ付テ答辯ヲ得タイ、又農商務大臣ニ答辯ヲ求メマシテ、敢テ難キヲ責メル問題デハナイ、誠ニ法案ニ親切ナル間デアアル、行政法ガ授ケタル權利デアアルカラシテ、行政上ノ許可ヲ受ケルノデ、民法トハ沒交渉デアアルカドウデアアルカ、農商務大臣ハ然リト答フレバ十分デアアル

○農商務大臣(男爵大浦兼武君) 唯今花井君ノ御質問ハ、餘程此法律上ノ問題ハ御意見モ悞セテ御述ベニナツタヤウデゴザイマス、唯今ノ御論法ニ付テハ能ク攻究ヲ致シテ御答ヲ致シマセウガ、又アナタノ方デモ御意見ノヤウデアアルカラ、能ク又御攻究ヲ願ヒマス、今據ナイ用ガ起リマシテ、折角立タウトスルトコロデアリマス

○花井卓藏君 私人方ハ攻究スル必要ハナイ、能ク分ッテ居ルノデアリマスカラ、私ハ此行政權ノ授ケラレタル權利ト云フモノヲ物權ト見ルト云フコトハイカヌト云フコトデアアル、此法案ヲ全然物權ト見テハ居ナイノデアリマス、ソレガ當然デアルト云フノデアリマス、少クモ結論ニ至ッテ物權ト相添ハザルコト、ナッテ居ルノハ、好シデ民法上ノ物權ニ於テ見タル法ノ事柄ガ、立法ノ體裁トシテ宜シキヲ失スルノミナラズ、行政權ノ手加減トシテ漁業權ノ性質ヲ失フカラシテ、御攻究ヲ私ノ方カラ願ヒタイ、私ノ方ニハ研究ノ必要ハナイ、ソレカラ今度ハ各論トシテ政府委員ニ御尋シマスガ、水產局長ノ御答ノ中ニ、入漁權ト漁業權ト云フコトハ區別ガアル、勿論區別ガアルト云フコトハ能ク知ッテ質問シタデアアル、而シテ更ニ進シテ然ラバ入漁權ト云フモノハ物權ト見做サナイノデアアルカト云フト、平沼委員ヨリ十三條ノ規定ガアルト云フハレマシタ、私モ十三條ヲ能ク讀シテノ間ヒナノデアアル、無論能ク知ッテ居ル、此ニ於テ疑ガ起ルノデアアル、漁業權モ入漁權モ物權ト看做シテ置キナガラ、漁業權ト云フモノハ看做方ノ分量ガ多クシテ、入漁業權ノ看做方ノ分量ガ少イノハドウ云フ譯デアアルカト云フコトノ、問ヲ發センタメノ前提トシテ御問シタトコロガ、鵜澤君ノ應答ノタメニ時間ガ費ヘタノデアリマスガ、其理由ヲ承リタイ

○政府委員(法學博士平沼騏一郎君) 大分込入ッテ御問ニナリマシタノデゴザイマスガ、入漁權ト漁業權ノ問題ノコトハ先刻申上ケタ通りデ、兩方トモ同ジク物權ト看做シテ居リマスコトモ、唯今花井君ノ仰セノ通りデアリマス、ツマル所物權ト看做シテアリマスガ、唯今花井君ノ言ハレマシタ通り、物權ノ總テノ規定ヲ悉ク之ニ適用ハ致シテ居リマセヌ、是ハ權利ノ性質上カラ致シマシテ適用致シマシテ、適用ノ出來ナイコトモアリマスルシ、又適用致シマシテ不都合ナコトモアリマス、此入漁權ト、ソレカラ漁業權ニ付キマシテモ、權利ノ性質又内容ニ於キマシテモイロク違ッテ居リマスカラ、此物權規定ヲ漁業權ニハ適用スルガ、入漁權ニハ適用出來ヌト云フモノモ幾ラモアラウト思フ、例ヘバ十三條ニ於キマシテ入漁權ハ相續讓渡ノ目的トスル他ニハ權利ノ目的ニナラヌト書イテアル、漁業權ノ方デアリマスルト質ニ入レルコトガ出來ヌト云フガ制限ニナッテ居リマシテ、其他之ヲ抵當權ノ目的ニスルコト云フコトモ出來ヌト云フガ制限ニナッテ居リマシテ、マスルニハ、先刻申シマシタ權利ノ内容ニ基クトコロノ區別、入漁權ヲ抵當ニ入レルト云フコトハ或ハ出來ナイコトモアルカ知レマセヌガ、斯ノ如キ場合ハ殆ド入漁權ニ付テハナカラウト思ヒマス、又入漁權ヲ抵當ニ入レマシテ、之ヲ競賣ニ付シテ、他ノ人ガ其權利ヲ取得スルコト云フヤウナコトニナリマシタナラバ、イロクナ錯雜シタ關係ヲ惹起スコトニナラウト思フ、元來入漁權ト云フモノハ他ノ漁業權ノ範圍ニ入リマシテ、漁業ヲ爲スト云フ權利デアアルノデアアルカラ、斯ノ如キコトハ入漁權ニ付テハ認メナイ方が宜カラウト思フ、斯ノ如キ次第デアリマシテ、其以外ノ事柄ニ付キマシテハ、イロク漁業權ト入漁權トノ權利ノ内容ノ區別ニ基キマシテ、自然ニ分別ハ致サナケレバナラヌコトハ出來テ宜カラウ、唯今抵當權ニ付テ御話ヲ致シマシタ、サウ云フ次第デアリマシテ、必ズ同ジ物權デアアルカラ、入漁權モ漁業權モ同ジニ取扱フト云フコトハ、ドウシテモ法律ノ上デハ出來

マイト考ヘマス

○花井卓藏君 漁業權ハ第八條ノ規定ニ依ッテ「物權ト看做シ而シテ土地ニ關スル規定ノ法ヲ準用シ」分量モ甚ダ廣ク且ツ大ナリ、入漁權ハ第十三條ニ於テ規定セラレテ「物權ト看做ス」サウ云フ區別上他ノ目的以外ニハ働キヲ許サレヌ、分量甚ダ狹ク且ツ小ナリ、此理由ハ何レニアッデ、且ツ存スルヤト云フコトヲ御尋ネシタ、所ガ物ノ性質トシテ漁業權ト入漁權トハ違ッテ居ルカラシテ、事實多クハアルマイ、入漁權ハ抵當ノ目的ニ供スルコト云フコトハ事實多クアルマイト云フコトヲ御答、ソレカラ又斯ノ如キ事柄ヲ是認スルコト云フコトハ性質上許スベカラザルコトアル、入漁權ヲ抵當ノ目的物ニ供スル、而シテ競賣ニ附セラレ、三者ノ手ニ渡ルト云フコトハ法ノ上ニ於テ防ガシテバナラヌノデアル、故ニ分量狹ク且ツ小ナリ、斯ウ云フ趣意ノ御答デ意味ハ能ク分ッタルデアリマスガ、私ノ根本問題トシテ疑ノ起ル所以ハ、漁業權ニシテモ入漁權ニシテモ、物權ト同視スルコトノ出來ナイ事實ハ、唯今政府委員自ラ御説明ニ相成リタル通りノ次第デアッテ、現ニ漁業權ト入漁權トサヘ同一ニ視ルコトハ出來ナイ位ノモノデアリマスカラ、ソレヲ似テモ似ツカヌ民法問題トシテ、試驗規定ノ下ニ支配ヲシヤウト云フ法文ノ趣意ハ、八條、十二條ニ於テ御免ヲ蒙ル、大要ノ趣旨ハ明瞭シテ居ル、ソレヲ好シテ民法權ヲ認メラレテ、行政權ノ授ケタル權利トシテ、獨立ニ行政權モ働ケバソレニ依ッテ得タル權利モ働クヤウニ立法シナカッタカ、其事ハ本案ヲ讀ンデ第一ニ疑ヲ起シタルデアルガ、其趣旨ヲ御尋ネシタイノデアリマスケレドモ、農商務大臣ハ去ツタ、水產局長ハ御答ガ出來ルカ出來ヌカ、私モ甚ダ惑フコト云フノハ、其趣旨ニ此法文ヲ御直シニナルト信ズル、此儘デモ宜シケレバ宜シイト思ヒマスガ、宜シイト云フノ理由ヲ一ツ納得サシテ貰ハナケレバナラヌ、私ハ漁業法ヲ迎ヘル論者ニ屬スル一人デアルケレドモ、折角授ケラレタルモノモ是デハ貰ッテモ迷惑スル、是モ一ツ御攻究ヲ願ヒタイ、今日採決ニナレバ今御回答ヲ願ヒタイノデスガ、採決ニナラナケレバ御攻究ヲ願ッテ、授ケル方モ得タル方モ、立派ナル權利トシテ働ノ出來ルヤウニシテ貰ヒタイト云フ希望ヲ述ベテ置キマス、ソレカラ各條ニ於テハ各條各、之ニ付テ見ル所ガアリマスガ、此根本問題ガ定マラヌ以上ハ、問答モ私ダケハ無用ニ屬シマスカラ、是デ差控ヘマス、唯折角此ニ平沼政府委員ガ見エテ居ラレマスノデ、前ノヲ繰返スノデアリマセヌガ、唯一點平沼政府委員カラ御答ヲ得タイト思フノハ、此漁業權ハ人格權デアルカ財產權デアルカ、或ハ人格權兼財產權デアルカト云フコトニ付テノ答辯ヲ煩シタイ、是ハ水產局長カラ答辯ヲ得マシタガ、漁業權ハ漁業權ナリト云フ御答デアリマシタ、ソレデハ答ニモ何ンモナラヌノデアリマスカラ、明快ナル平沼政府委員ノ御答ヲ得テ、性質ノ争ダケハ満足シヤウト思ヒマス

○政府委員(法學博士平沼騏一郎君) 唯今ノ御質問ハ甚ダ御答ニモ困リマスヤウナ御質問デ、實ハ學問上ノ御問ノヤウニ考ヘマスルノデ、イツレ水產局長カラモ御答致シマシタゴザイマセウガ、此法案ヲ立テマスルニ付キマシテノ考ダケヲ申シテ置キマセウ、是ハ財產權デアルカ、人格權デアルカ、或ハ他ノ權利デアルカト云フコトデゴザイマスガ、是ハマア各自ノ御研究ニナリマシタ結果ニ依リマシテ、ドウ御論ゼラレマシタコトコガ差支アリマセヌノデアリマシテ、此法案ヲ立テマスルニ付キマシテハ、是ハ人格權デアルトカ、財產權デアルトカ、或ハ他ノ權利デアルトカ云フヤウナ學問上ノコトヲ明確ニ斷

メテ立テマシタ案デハ勿論ナイノデアリマス、併ナガラ此漁業權ト云フモノハ兎ニ角相續モサセナケレバナラヌ、賣買、讓渡モサセナケレバナラヌ、又抵當ニモ入レラレナケレバナラヌト云フ權利ノ性質デアリマスカラ、之ヲ學問上ノ見地カラシテ何ト御論ジニナルカ知ラヌガ、兎ニ角財產權ト同様に取扱フ受ケラレル權利デアルト云フコトガ出來ルト思ヒマス、サウ致シマスレバ財產權ト同一ノ取扱フ受ケラレル權利デアリマスレバ、ツマリ民法ノ規定ニ從ハシメルガ相當デアル、民法ノ規定ニ從ハシムルト云フコトニナリマスレバ、之ヲ物權トスルカ、債權トスルカト云ヘバ、寧ロ物權ノ規定ヲ多ク適用シナケレバナラヌ實ノ權利デアアル、ソレデアリマスカラ物權ト看做ス、物權デハ勿論アリマセヌケレドモ物權ノ規定ヲ大多數是ニ適用スルノデアリマスカラ、ソレデ物權ト見做スト云フ規定ヲ以テ之ヲ片付ケテアルノデアリマス、ソレカラ尙先刻ノ花井君ノイロノノ權利ノ性質ニ付キマシテ御話ガアリマシタ、其點ニ付キマシテハ此法案ニ種々關係スルコトデアリマスカラ、申上ゲテ置クノデアリマスガ、勿論先刻花井君カラ言ハレタコトハ大ニ研究ヲ要スル問題デアリマシテ、研究ハ十分致スベキデアリマセウガ、兎ニ角此法案ヲ立テマスル際ニ之ヲ物權ト見做スト云フ規定ヲ置キマシタ趣意ハ、先刻申シマシタ財產トシテ事實ニ於テ取扱ハレルコトコノ權利デアリマスカラ、ソレデ民法中ノ財產權ニ關スル規定、殊ニ其中デ物權ニ當嵌メラレタルコトコノ法規ト云フモノヲ、多ク是ニ適用スルコト云フ趣意デ、此法案ヲ立テマシタノデアリマス、デアリマスカラ根本ニ遡ッテ權利ノ性質如何ト云フコトハ別ニ申シマセヌガ、兎ニ角此法案ニ於テ、之ニ財產權ト同様に取扱タト云フ點、其結果トシテ大部分民法ノ規定ニ從ハシメルト云フコトハ、此法案ヲ立ツルニ付キマシテ採リマシタ點デアリマス

○高木正年君 政府ガ更ニ此第八條ノ規定ヲ置イタ以上ハ、ドウシテモ二十四條ノ解釋ニ付テ感ヲ生ズルノデ、先刻御問シマシタガ、此點ニ付テ御答ガナイ、尙自分ガ此二十四條ニ付テ申上ケルコトハ、元來此漁業權ノコトニ付テ、種々ノ間違ヲ起スノハ何デアルカト云フト、維新以前ヨリ得來リタル在來ノ漁權トモ認メラルベキ慣行ガアルニ拘ラズ、理屈上ノ取扱ヲシテ居シテ、確カニ從來ハ財產權ト見做サレテ居タモノヲ、漁業法ノ實施以後ハ政府ハ行政權ヲ以テ處分シテ、從來ノ慣行ト云フモノヲ認メラレナイ、故ニ漁業ニ付テハ種々ノ葛藤ガ起ルノデアルト思フ、私共ハ確實ナル物權ノ性質ヲ認メル以上ハ、此二十四條ニ付テモ尙一層廣イ意味ニ解釋シ、又修正シタイト思ヒマス、併シ政府ガ既ニ物權ト見做ス以上ハ、二十四條ノ行政官ノ取扱ト云フモノモ本案ノ性質上大ニ私共モ益スルコトコガアルノデ、此物權トスルコトニ付テハ異論ハナイノデスガ、此二十四條ノ解釋ニ付テ、尙一應政府ノ意見ヲドウ御話下サルコトヲ希望致シマス

○政府委員(道家齊君) 唯今高木君カラ第二十四條ニ付テノ御尋デゴザイマスガ、此漁業權デゴザイマスガ、漁業權ハ先刻來イロノノ質問ガアリ、此漁業權ハ元ヨリ物權ト見做ス、即チ是ハ私權デアリマスカラ、夫故ニ物權ト見做シテ之ヲ取扱フコトニナツテ居リマスガ、然レバ其物權ト見做ス位ナレバ、ヤハリ此權利ト云フモノニ付テハドコマデモ其權利ヲ尊重シテ、サウシテ取消シタル場合ハ賠償ヲヤラナケレバナラヌト云フ趣意ノ御尋ト思フ、ソレハ至極御尤デゴザイマシテ、漁業權ニ付テハ既ニ抵當權マデ認メルト云フ位ニ進ンデ居リマスカラ、此權利ヲ尊重シナケレバナラヌコトハ論ヲ待タヌノデアリマス

が、併ナガラ此漁業權ナルモノハ、御承知ノ通り此水面上ニ於テ設定スル一ノ權利デア
リマシテ、其水面ヲ利用スルコト云フコトモ一面考ヘナケレバナラス、デアリマスカラ單純ノ
私權デアッテ、一旦其私權ヲ尊重スル以上、何處マデモ例外ナシニ之ヲ尊重シテ賠償シ
ナケレバナラス云フコトモ、亦考ヘナケレバナラス、故ニ二十四條ハ即チ水產動植物ノ
蕃殖保護ヲハ船舶ノ航行、碇泊、繫留等ハ即チ——其他國防上、軍事上必要
ナルトキト云フヤウナ、水面上ヲ利用致シマスルニ付テモ重要ナルコトデ、或場合ニハ是ハ
ドウモ止ムヲ得ズ此賠償ヲモ與ヘズシテ、サウシテ之ヲ取消スコトガ出來ナケレバ、此方面
カラ見マシテ甚ダ不便デアラウト思フ、此處ガ即チ一方ニハ私權ト云フコトニ致シマシテ、
其私權ヲ尊重スルト同時ニ、又一面ニ水面上ノ利用ト云フコトヲ考慮致シテ、サウシテ
二十四條ト云フモノハ規定ヲ置イタノデアリマス、ソレデ公益上害ガアルヤ否ヤト云フモ
ノ、中ニ、例ヘバ築港デモシタ時分ニハドウデアラウカト云フ御疑ノコトモアツタヤウデゴザ
イマス、ソレハ此處ニモ書イテゴザイマスル通りニ、公益上ニ害アルトキトゴザイマスルノデ
アリマスカラ、築港ナドヲ致シマスル場合ニハ、ソレハ此公益上ニ害アルノデハナクシテ、即
チ公益トナルベキ事業デアラウト思フ、其場合ニハ賠償ヲ要スルコトニナルト思ヒマス、此
處デハ即チソレ故ニ公益上害アルト認メタノハ其趣意ヲ明ニシタイト云フ考デアリマス、ソ
レカラ此聯合會ノ御尋ガゴザイマシタ漁業組合ノ聯合會ハ御承知ノ通り現行デハ組合
ノ聯合ヲ認メテ居リマセヌノデゴザイマスケレドモ、是ハ實際上カラ鑑ミマシテ、此漁業組
合ノ目的ヲ達スルニ於キマシテハ、ヤハリ組合ガ聯合致シマシテ、サウシテ行フト云フコトガ
實際上便利ナルコトヲ認メマシタカラシテ、此聯合會ヲ設ケマシタノデ、サウシテ聯合會ガ
或ハ甲ノ縣若クハ他ノ縣ニ跨ルコトガゴザイマセウ、サウ云フ場合ニ於キマシテモ、果シテ
ソレガ必要ナリト致シマスレバ、其聯合會ヲ認メツモリデゴザイマス、ソレハ何レソノ事柄
ハ此施行法ニ依ッテ其邊ハ規定ヲ致シマスルツモリデゴザイマス、其際ニ於キマシテ或ハ其
地方廳若ハ農商務大臣ト云フコトハ、場合ニ依ッテ其施行命令ヲソレハ規定スルツモリ
デゴザイマス

○高木正年君 唯今築港ノコトニ付テ自分ノ疑ハ政府委員ガ解カレタノデアリマスガ、
併シ二十四條ノ大體ニ付テ言ヒマスルト、自分ノ問フ要領ヲ盡シテ居リマセヌ、水產動
植物ノ蕃殖保護ト云フコトハ、是ハ頗ル名ノ附ケヤウ次第二依ッテハ、何時モ之ニ依ッテ
漁權ヲ取消スコトガ出來ル、斯様ナコトハ一體許可シタ後ニ發見スルノデナクシテ、從
來ノ慣行ニ依ッテ許サレテ居ルモノハ、特ニ是等ノ事ハ研究サレテ居ル、斯ウ云フコトノ
憂ノアルモノハ、慣行トシテハ地方長官ガ許サレタ漁業ニ付テハ左様ナコトガ出來ルノデ
アリマスガ、何レトモ行政廳ノ名ノ附ケヤウニ依ッテハ大切ナル漁權ヲ取消サル、是ハ二
十五條ニ錯誤ニ依ッテ許サレタモノハ取消スコトガ出來ルトアリマス、強イテ之ヲ取消ス
コトヲ、斯様ナ場合ニ政府ガ誤ッテシタナラバ有償ト云フコトニナルト、自然ニ政府ガ注
意スルコトニナリマス、此二十四條ニ付テハ政府ノ御一考ヲ私ハ希望スルノデアリマス
○鵜澤總明君 モウ一遍私ハ此權利ノ性質ニ付テ自分ノ疑ヲ解キマスルタメニ御尋ヲ
シテ置キタイノデアリマス、漁權ノ御説明ハ段々承リマシテ大分明白ニナッテ參ッタノデア
リマスガ、此組合員ノ持ッテ居リマス權利ハ、ツマリ此漁業ヲ爲スノ權利デアリマス、
是ハ入漁權トドウ云フ點ニ於テ違フノデアリマセウカ、ソレカラ又特別ニ之ヲ違ハシメタ

必要ト云フモノハ、果シテドノ邊ニアルノデゴザイマセウカ、御尋ヲ致シタイト思ヒマス、此
七條ノ規定ニ依リマスルト、入漁權者ハ此設定行爲トカ、或ハ慣行ト云フコトガアリマ
スルガ、ソレニ依ッテ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ、サウシテ專用漁業權
ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス、斯ウ書イデアリマス、ソレカラ四十三條ノ
組合員ノ權利ニナリマスルコト云フト、ヤハリ專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各
自漁權ヲ爲スノ權利ヲ有スト云フコトニナッテ居リマス、ソレデアリマスカラ、入漁權ノ七
條ノ場合ハ他人ノ持ッテ居ル權利ニ入會フコトニナリマス、ソレカラ四十三條ノ場合ハ、
組合員ガヤハリ法人トシテ、組合員ト異ッテ居ル者ノ有シテ居ル專用漁業權、又ハ入
漁權ノ範圍内ニ於テ漁業ヲ爲スノ權利ト云フコトニナッテ居ルカラ、性質カラ見マスルト
殆ト違ガナイヤウデアリマス、然ルニ何故ニ違フト云フコトニナルノデアリマセウカ、而シテ
違フコトノ必要ハドウ云フ點ニ基イテ居リマセウカ承リタイノデアリマス、ツマリ本法ニ於
キマシテ漁業權ノ物權トスルカドウカ、根柢ノ問題ヲ極メ、又此外或方面カラ見マシタ
ナラバ、水產局長ノ説明セラレタ通り、行政法ノ一部デアリマセウカ、又或方面カラ見
マスルト、民法ノ一部デアルトモ見ルコトガ出來ルヤウニ思ハレマス、必シモ之ヲ行政法ノ
一部デアルトカ何トカ云フ工合ニ、的確ニ明言スルコトノ出來ナイ性質ガアラウト思ヒマ
ス、其邊ノ權利ノ關係ヲ精シク承ッテ置キマシテ、或ハ修正意見ヲ述ベテ見タイト思ッテ
居リマス

○政府委員(道家齊君) 唯今鵜澤君カラノ御尋ハ、七條ト四十三條トノ關係デア
ラウト思ヒマス、此七條ノ方ノ入漁權者ト云フ、即チ此七條ノ方デ見マスルト云フト、
入漁權者ノ性質ヲ先ツ揭ゲタモノデアリマシテ、ソレデ四十二條ノ方デ見マスルト云フ
ト、此漁業組合員ハ即チ其自己ノ屬スルコトノ組合ガ持ッテ居ルコトノ漁業權ヲ組
合員ガ各々自カラ其權利ヲ行フコトガ出來ル、ソレカラ入漁權ハ是ハ他ノ組合ガ本權ヲ
持ッテ居リマスカラ、其本權ヲ持ッテ居ル處ヘ行ッテ、サウシテ其漁業ヲ爲スコトガ出來
ル、即チ他人ノ漁場ニ行ッテ致シマスルノヲ入漁ト云ッテ居リマス、其入漁ト云フ權利ヲ
組合ガ持ッテ居リマス、サウスレバ其組合員ガヤハリ他人ノ漁場ヘ行ッテ、サウシテ其漁
業ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトヲ明カニシタ積リデ四十三條ノ規定ニ出來テ居ル、ツマ
リ言ヒマス、七條ハ入漁權者ノ性質ヲ論ジ、四十三條ハ組合ガ其入漁權ヲ得テ居リ
マス、其入漁ハ他人ノ漁場ヘ這入ッテ行クノデアリマスカラ、其組合員ハ其組合ニ屬ス
ルトコロノ漁業ヲスルコトガ出來ルト云フ方ヲ四十三條ハ規定シタノデアリマス

○鵜澤總明君 事柄ハ分ッテ居ルノデアリマスガ、ツマリ組合員ガ其組合ノ持ッテ居ル
漁業權ニ基イテ漁業ヲ爲スト云フコトハ、此七條ノ入漁權ノ場合ト實質上ニ於テハ全ク
違ハヌト思フ、權利ノ性質カラ云ヘバ——ソレデツマリ私ノ承リタイノハ、漁業組合ヲ法
人トスル、法人トスル以上ハ、法人ガ漁業權ヲ有シテ居ルベキモノト思フ、然ルニ其
漁業權ト云フモノハ、片輪ノモノニナッテシマッテ、實際ニ於テハ漁業組合自ラ漁業ヲ營
ムコトヲ得ズト云フト、他ノ法律ニ定マツコト、全ク違ッテ規定ガ現ハレテ居ル、其結果
トシテ組合員ガ各自漁業ヲナスト云フ權利ヲ持ッコトニナッテ、然ルニ此規定ハ當リ前デ
見ルト、第七條ノ入漁權ト云フコト、實際ニ於テハ違ハヌヤウニナッテ來テ居ル、甚ダ妙
ナモノガ出來テ居ル、其次ニ法人ノ權限ヲ制限スル上ニ於テ、他ノ法律ニ類例ノナ

イ 現行法ニハアリマスガ、餘リ類例ノナイ事柄デアラウト思ヒマス、此現行法ニ於テ既ニ疑ヲ抱イテ居ッタデアリマス、ソコデ聽イテ見タイノハ、若シ此入漁權ト云フデケデハ組合員ノ權利ヲ行フト云フコトガ事實ニ於テ不都合ニナル、斯ウ云フコトニナルノデスカ、ソコヲハドウ云フモノデスカ

○政府委員(道家齊君) 唯今ノ御尋ハ御尤ト考ヘマスガ、是ハ元來漁業組合ト云フモノハ、從來ノ漁業ノ遺リ方ガ何レノ地方デモ大體ヲ申シマスルト云フト、漁村トカ若クハ部落トカ云フモノガ一ノ村ノ主體ニナリマシテ、サウシテ其實ハ皆其部落ノ住民ガ漁業ヲ營ムト云フコトガ是マデノ事實デアアルノデ、ソレデ其由テ起リマシタノハ何カト申シマスト、元來此漁業權ナルモノヲ與ヘルト云フコトハ、漁村ノ維持デゴザイマス、漁村ノ維持保護ト云フヤウナ趣意カラ一ノ權利ヲ漁村ニ與ヘル——漁業部落ニ與ヘル、斯ウ云フコトニナッテ、サウシテ其營業方ハ其組合員ニ遺ルト云フコトニナッテ居ルノハ、若シ此組合ガ團體ノ上ニ於テ營業ヲ自ラ致シマス、或ハ其損失ヲ來スコトガアル、又此漁業組合ナルモノガ完全ニ働ク場合ニハ宜シウゴザイマスケレドモ、斯ウ云フ營業上ノコトデゴザイマスカラ損得ト云フコトガ随分多イデアリマスカラ、ドウシテモ此漁村ノ維持ノ方カラ云ヒマス、此組合自ラニ此漁業ノヤウナ營業ヲサセルト云フコトハ危險デモアルシ、又今日マデノ事實ニ於テサウ云フコトヲヤッテ居ナイノデ、主體ガ部落トカ、或ハ村トカ云フモノガ權利ヲ持ッテ、サウシテ實際ノ營業ト云フモノハ總テ組合員ガヤルト云フコトハ、今日ノ事實ニナッテ居リマスカラ、ツマリ現行法モ其事實ニ依ッテ出來テ居ルノデアリマス、從ッテ此入漁權ノ方モヤハリサウ云フ習慣ヲ此法文ニ掲ゲタニ過ギナイノデアリマス、デカラ唯今御不審ノヤウニ大體カラ云フト、漁業組合ト云フモノハ權利ヲ持チナガラ其權利ヲ行使シナイト云フノハ如何ニモ變體ノヤウデアリマスケレドモ、其變體ナノハハ實際サウ云フ風ニ從前カラナッテ居リマスカラ、ソレヲ此法文ニ表ハシタト云フノガ大體ノ趣意デアリマス

○鵜澤總明君 サウ致シマス、町村若クハ區ガ漁業ニ依ッテ動カサレルト云フコトノヤウニ聽エマスガ、町村若クハ區ト云フノハ、其町村若クハ區ノ住民ニ漁業權ヲ與ヘルト云フヤウナ趣旨ニナッテハヤハリ不便ニナルノデスカ、ドウモ漁業組合ト云フモノヲ設ケル方が取締其他ニ於テ便利デアアル、町村若クハ區ノ住民ニ漁業權ヲ與ヘルト云フコトデハ大變不都合デアアルト云フヤウナコトデモアルノデスカ

○政府委員(道家齊君) 唯今ノ御尋ハ此漁業權ナルモノヲ個人ニ與ヘル場合モゴザイマスケレドモ、現在今日マデノ此漁業ノ狀態ト云フモノハ總テ部落々々共同デ漁業ヲシテ居ルト云フノデスカ、ソレヲ取ッテ組合ト云フモノヲ造ッタノハ組合部落、若ハ漁村ト云フモノヲ團體トスル一ノ名稱ニ過ギナイノデ、其實ハ昔ノ部落或ハ漁村ト云フモノニ代ルモノトシテ一ノ組合ヲ設ケタノニ過ギナイノデアリマス

○花井卓藏君 今ノ鵜澤君ノ質問ニ關聯シテ居ルノデス、私ハ此點ニ關シテハ第四十三條ノ規定ガアルガタメニ、却テ疑ガ起ッタモノデアラウト思ヒマス、然レドモ鵜澤君ノ解セラル、ガ如キ趣旨トスレバ、此漁業法ハ一切意味ヲナサナイコトニナル、唯今政府委員ノ説明スル通り、四十二條ニハ一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得ト規定ニシテアル、例ヘバ一定ノ地區内ニ住所ヲ有ス

ル煙草業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ煙草組合ヲ設クルコトヲ得ト云フコトト同シ趣旨ノ條文デアアル、既ニ煙草ノ營業ヲ爲シテ居ル者ガ、相結合シテ組合ヲ設ケタル場合ニ於テ、其ノ組合ガ營業ヲナスコトノ出來ナイト云フコトハ事理ノ明白ナルコトデ問題ニハナラヌコトデアアル、鵜澤君ノ疑ノ起ル所以ハ四十三條ノ規定ニ、漁業組合ハ法人トスト書イデアアルカラデアアル、法人トシテ一ノ人格ヲ認メテ、而モ漁業權ノ取得權ヲ認メ、貸付權ヲ認メタル以上ハ、漁業組合ハ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得ズト云フノハ甚ダ意味ヲ爲サズデナイカト云フ、斯ウ云フ趣旨カラ起ッタラウト思ヒマス、ソコデ私ハ全體四十三條ハ無用ノ條文デハナイカト考ヘマス、若シ鵜澤君ノ説ノ如ク、法人ニ漁業ヲ營ム權利ヲ認メナケレバナラヌト云フコトニナリマス、第四十四條ノ方ヲ讀ンデ見タラドウナリマセウ「漁業組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合聯合會ヲ設クルコトヲ得漁業組合聯合會ハ法人トス」斯ウ書イデアアル、サウスルト云フト、此二ノ漁業者ガアッテ、サウシテ普通ノ漁業權ヲ持ッテ居ル、ソレカラ組合モ持ッテ居ル、又聯合組合モ持ッテ居ルト云フヤウナコトガアリトスレバ、營業權ノ發働ハ互ニ抵觸シテ參リマス、鵜澤君ノ法人ト云フノミノ御議論ハ御尤ダガ、條文ノ三箇條ヲ通シテ御覽ニナリマスレバ、運用ニハ慥ニ困ルノデスカ、個々ノ制限ヲ受ケナケレバナラヌ、誠ニ不完全極マル權利ノ働キニナラウト思ヒマスカラ、此點ハ水產局長ノ答辯當ヲ得テ居ルコト、思ヒマスガ、四十三條、四十四條ト云フモノハ本法デハ絶對的無用ノ規定デハナイカト思ヒマスガ、ヤハリ有用ノ規定ナリトセラル、ヤ否ヤ、質問致シマス

○政府委員(道家齊君) 唯今花井君ノ御尋デアリマスガ、此漁業組合ハ法人トシテ、成程此漁業組合ノ仕事ト致シマシテハ、或ハ命令デモ宜イカモ知レマセヌ、併ナガラ此漁業組合ト云フモノニ一ノ人格ヲ與ヘテ、サウシテ且財產ナリヲ所有シ、或ハ此貸借關係ナドヲ起サセルト云フコトニ致シマス、ヤハリ是ハ四十三條ノ如キ規定ヲ茲ニ設ケナケレバナラヌカト思フノデアリマス、從ッテ四十四條ノ如キ、即チ聯合組合ヲ設ケル規定ヲ設ケタノデアリマス、是等モヤハリ法人トスルト云フヤウナコトニ致シマスレバ、ヤハリ法律ヲ規定シナケレバナラヌコトト考ヘテ此所ニ掲ゲタ譯デアリマス

○委員長(板東勘五郎君) 如何デス、マダ大體ノ御質問ハ殘ッテ居リマセウカ、(「マデアリマス」ト呼フ者アリ)ソレデハ本日ハ是デ散會致シマシテ、次回ハ公報ヲ以テ御通知致シマス

午後零時二十三分散會

明治四十三年二月二十日印刷

明治四十三年二月二十一日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局